

城東学園学校再編地区説明会 佐東地区

日 時：令和 6 年 9 月 26 日（木）19:00～20:00

場 所：佐東公民館

参加者：20 名

事務局：5 名



1. 開会

○配布資料の確認

○主催者(教育政策課長)あいさつ

城東学園小中一貫校整備検討委員会は、第 1 回を 7 月 9 日に開催、第 2 回を 9 月 24 日に開催している。小中一貫校整備に関してご意見をお伺いしたい。随時、情報発信していくため、市ホームページをご確認いただきたい。

2. 説明

○市担当者説明

- ①学校再編、小中一貫校とは？
- ②城東学園周夫忠一貫校整備検討委員会
- ③小中一貫校の建設候補地
- ④公共施設の複合化
- ⑤開校までのスケジュールと進め方

3. 意見聴取

意見① パブリックコメントにも書いたが普通に考えれば、建設地は中心であるべきだと思う。住民にアンケートをとるべきではないか。小学校がなくなる地域は不公平感を感じるようになる。遠い地域の通学支援や子どもが少なくなることへの対策を検討することが重要。例えば、こうした地域の家庭には、子ども手当を倍額にする、家を取得する際には補助をするなど、子どもが減らない対策、地域格差がないように考えてもらいたい。こうしたことを公共施設の再編のときにも申し上げたが、公共施設がなくなる地域は耕作放棄地が増えるなどが危惧される。1 か所に集約するのではなく、公共施設が少ない地域などに分散する方が良い。また、身近な防災拠点を確保するという観点でも重要なので、こうした視点を加味した検討をお願いしたい。

掛川市 建設地については、計画の中で既存の小・中学校の敷地を活用するとある。これに加え、

大学跡地は市所有の土地であるため、候補に加えている。新しい用地を取得せず、費用を抑えるように検討している。住民アンケートについては、検討委員会には地域の代表にも参画いただいているので、まずは代表の方々のご意見を伺いながら検討し、決定した際にも地域の説明会を行い、地域のみなさんのご意見を伺いたいと考えている。通学支援については、国の基準で小学生で4km以上と中学生で6km以上と定まっている。小中一貫となることで通学距離が長くなる生徒が増えることが想定されるため、国の基準にとらわれず規制緩和を考えていきたい。なお、スクールバスと公共交通機関を使う場合は、家庭の負担ではなく、行政が支援することになると考える。跡地活用については、すぐにということではないので、学校再編を検討している間に、地域の意見も伺いながら、どのようなまちづくりを進めていくか、検討しながら進めていきたい。

意見② 説明会にはすべて出席して話を聞いている。その都度、タイムテーブルを聞いているが、初めに伺ったスケジュールで進んでいるのか。今後も進められるのか。

掛川市 すべての合意を得るのは難しいと考えているが、提示したスケジュールで進めていきたいと考えている。一方で、地域の同意を得ながらという面もあるので慎重に検討を進めていきたい。

意見③ 候補地に佐東小学校があるので、土方小学校、中小学校でも佐東小学校が良いよという意見があったのか。中地区、土方地区での意見がどのようなものであったか聞きたい。

掛川市 候補地については、事務局から中学校と大学跡地を候補地とした。検討委員会で各委員に候補地を推薦いただいた結果、佐東小学校が候補に挙がり、候補地として検討している。土方小学校・中小学校については候補に挙がってきていない。先に説明会を行った土方、中地区では、通学支援について心配される声が多く、通学路をどのように整理するかといった意見が多く聞かれた。

意見④ 前回の検討委員会を傍聴しており、本日の説明内容は自分が想定していた内容とは違った。台風で順延になった影響はあるが、検討委員会での経過などは説明しないのか。

掛川市 当初8月で建設候補地を検討したうえで、こちらの説明会を行う予定であったが、台風で延期したため、中地区、土方地区では検討委員会の前で開催となった。佐東地区は検討委員会後の開催となっているため、検討委員会での検討内容を補足する。候補地の決定に際しては、多数決だけではなく、各候補地を多面的に評価し、75満点で評価点を作成する予定である。また、どのような学校にするかというワークショップを実施予定であったが、こちらは、次回となっている。

意見⑤ 自分の子どもが年中と年少。こども園に通っている方にも説明をしていると思うが、市は、施設が60年を経過していれば、建て替えをするとのことだが、建設地が中学校敷地の場合は既存の建物を壊しながら進めるのか。壊しながら整備するのであれば、個人的には大学跡地が一番良いと思っている。私事だが、まち協のまちづくり部会に参加しており、教育の関連で福祉部などから佐東小がなくなると地域が廃れるのではないかの懸念が出された。個人的にもそう思う。中幼稚園跡地が第4日曜日に活用されていることは知っているが、跡地利用も同時に進めないといけないと思う。掛川の南では個人開業医が高齢化で廃業が進んでいる。小中一貫校は、こども園も建設しており大学跡地が良いと思ってい

るが、個人開業医がなくなるなら佐東小の跡地については小学校の建物を利用しながら、医療モールとするアイデアがあっても良いのではないかと。敷地には薬局を併設してもよいと思うが、そうすることで人が寄る。学校がなくなるのですたれるということより、建物を再利用し、活用することも検討してはどうか。中地区、土方地区でも同様に課題に対してアイデアをだし、同時に考えて上げられれば良いと思う。まとめて解決するという広い視野があってもよいと思う。

掛川市 跡地利用について、心配される場所だと思う。中地区コミュニティ防災センターの敷地もかつては中小学校であったように、学校跡地をどのように使うか意見を聞きながら検討することは重要と思う。開業医がおられなくなるという状況からみて、医療モールは良いアイデアだなと聞いていた。是非、こうした意見を聞きながら並行して検討していきたい。

意見⑥ まず、3か所の候補があるが、新しく作るということで考えているのか。この築年数のなかで、既存施設を使いながら整備するのか。個人的には、魅力ある学校ということで、しっかり新規で整備することが良いと思う。二つ目は、今後子どもたちの適性の人数について、人口も減ってきている中、城東学園を整備しても、他の中学校と統合して一つになるという可能性はないのか。三つ目は、学校を新しく整備したからよいというわけではなく、現計画では1年で周知する計画となっているが、これまでの進捗で大丈夫か。

掛川市 基本的には新規の整備を想定しているが、場所によっては比較的新しい施設があるので、これらを改修しながら使うということも考えられる。次いで、適正な規模については、現在の0歳児の実数から考えると将来的に城東学園の小中一貫校では35人学級で各学年2クラスの編成が可能と想定している。ただ、新たな出生人数が1,000人を下回っており、母子手帳などの状況から来年は700人を下回ることが予想される。これらの少子化への歯止めがかからない状況である。最後に、今後の検討スケジュールについては3月までに決めていきたいが、議論が長引いた場合には4月にも引き続き検討をすることも考えられる。その場合でも3月には一定のご報告をしていきたい。

意見⑦ 地域との連携ということで、見守り活動、不審者の見回りは住民の目が合って成り立っている。佐東では周りにも人がおられるので見守りができることから個人的には佐東小学校を提案した。今後、よい学校ができることで周りに住宅ができ、病院などができ、良い地域になれば人は増えるかもしれないが、現時点で多くの目が近接するのは佐東小である。跡地利用の意見もあるが、幼稚園、小学校、公園、などもなくなっていくなかで、捨てられているように感じる。既存の小学校を活用することで、無駄な費用も使わずに済む。これらのことも検討してもらいたい。

掛川市 ご意見ありがとうございます。

意見⑧ 少子化の問題に対して城東学園という流れだと思うが、少子化の対策を市としてはどのように考えているのか聞かせてもらいたい。

掛川市 若者が定住しないことや、晩婚化などの問題があり、これだけという要因はない。このあたりの要因を明確にしながら検討できれば良いが、教育委員会として専門的に調べたことはないため、現状では効果的な打開策をお示しできない。例えば、お子さんが戻ってもらえるような施策も必要に思う。

4. 閉会

以上